【別紙様式Ⅰ】 令和4年度 学校評価報告書

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成 【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成 【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成 【創造】	学校名 北小 学校 校長名 松下 幸司

学校教育目標	学校経営の方針
友愛 努力 感動 よくあそび よくまなび ともにかがやく	インクルーシブな学校の構築 共生社会の担い手を育むため、一人一人を大切にし、すべての児童が共に学び共に育つ学校

今年度の重点目標

【確かな学力】①自ら学ぶ力を育て、わかる授業づくりに努める。②各教科の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。③家庭学習の習慣化を図る。
【豊かな心】①年間を通して豊かな心を育む活動に取り組む。②特別の教科 道徳を要とした「道徳教育」の充実を図る。③個々のニーズに応える支援教育の充実を図る。
【健やかな体】①「よく遊ぶ子」を育て、心と体の健康づくりに努める。②体育の授業改善及び環境の充実を図る。③保健、給食、安全指導の充実を図る。

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
各教科の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。	1	校内研究に各学年で取り組むことで、その学年の児童につけたい力を見極め、教材研究の充実に努めた。	児童アンケートの「学校の勉強はよくわかりますか」は、「よくわかる・わかる」が88%。保護者アンケートの「お子さんは授業がわかりやすいと言っていますか」は、「あてはまる、ややあてはまる」が79%。教職員の「基礎基本の定着を図る取り組みができたか」は「よくできた・できた」が100%。今年度は、学年だけでなくペア学年を組んで組織的に取り組むことができ、校内研究の成果が出てきた。	教職員の教材研究の時間を確保することで、さらに児童の「できた、わかった」という実感につながるものと考える。
家庭学習の習慣化を図る。	1	「ステップアップ家庭学習」という家庭向けの案内を配付し、家庭との連携を図った。自主学習の具体例を提示した。	児童アンケートで「宿題をしていますか（1～4年生）」は「よくしている・している」が92%。一方で、5～6年生の「自主学習をしていますか」は、「よくしている、している」が78%。宿題の提出率は95%。保護者アンケートの「宿題以外の家庭学習にも取り組むよう励ましていますか」は昨年度よりも3ポイント下がって67%だった。宿題の保護者サイン率は88%であった。本校としては、この項目については100%の達成を目指しているところであるが、保護者の理解や協力を十分に得ることができなかったととらえており、家庭・保護者との連携をさらに深め、協力体制を整える必要があると考えている。	懇談会の参加人数が少なかったため、保護者への啓発が不十分だった部分もあった。次年度は、懇談会や教育相談、学年だより等の機会を利用して、家庭学習の習慣化が学力向上につながることを引き続き家庭に伝えていく。
いじめや問題行動を減少させるための取り組みを図る。	2	児童アンケートをもとに全児童と個人面談を行い、教育相談で保護者と話し合った。問題点は多くの職員で共有し、児童指導・支援担当・スクールカウンセラーにつなげ組織的に対応した。	保護者アンケートの「学校はお子さんの学習面・友人関係・悩み事など相談しやすい体制になっていますか」は「よくあてはまる・あてはまる」が昨年度より2ポイント上がって85%。児童アンケートの「学校は楽しいですか」は「とても楽しい・楽しい」が91%、保護者アンケート「お子さんは明るく楽しい学校生活を送っていますか」は「あてはまる・ややあてはまる」も94%で、保護者と児童ともに昨年度と同様に高い数値を示した。教職員アンケートの「いじめや問題行動を減少させるための取り組みができたか」は「あまりあてはまらない・あてはまらない」が前期の7%から後期は14%になり7ポイント増加した。	今年度の問題行動として、頭髪の染色があった。学校のやくそくに明記していて4月と9月に家庭数配付した。また、全体での指導や学校だより等でもよびかけてきた。来年度も、ルールがあることの意義や守ることの大切さを指導し、児童や保護者から理解を得られるよう努めていく。
個々のニーズに応える支援教育の充実を図る。	2・3	支援を必要とする児童に対し、通級指導教室、国際教室、菜の花ルーム、チャレンジルーム等で個別の支援を行った。また、「空き時間サポート」を導入し、高学年の教諭が空き時間を利用し、支援を要する児童のサポートを行った。	保護者アンケートの「学校は子どもたち一人一人に配慮して教育活動を進めていると思いますか」は「よくあてはまる・あてはまる」が79%で昨年度よりも1ポイント減少した。教職員アンケートの「支援を必要とする児童に応えられたか」は「よくあてはまる・あてはまる」が93%で前期の97%から4ポイント減少した。 保護者や児童のニーズが増加しているとともに、支援を必要としている児童の数が増加している。十分に対応する職員と時間の確保が必要である。	支援を要する児童が多く、十分に支援の手が行き届かない現状があると考えられる。教職員・保護者・児童からさらなる支援を求める声が聞かれるので、「空き時間サポート」の充実や、その子に合った支援の内容を焦点化、共有化するなど考えていく必要がある。また、職員同士のコンサルテーションの時間を確保していく。
地域の特色を生かした学習や、保護者や地域との交流を積極的に進める。	3	1年生が地域の方が準備してくださったサクラソウを育てたり、地域の方が講師となって昔遊び体験をしたりした。また、2年生や3年生は生活科や総合的な学習の時間で地域を調べる活動を地域の方の協力のもと行った。	保護者アンケートの「地域の特色を生かした学習や、保護者や地域との交流を積極的に進めていると思いますか」は「よくあてはまる・あてはまる」が71%で、昨年度より2ポイント上がった。新型コロナウイルスの影響から、様々な学習活動や行事が内容の変更を余儀なくされていたことから考えると、2ポイントとはいえ大きな成長への足がかりだととらえている。可能な感染症対策を工夫しながら、できる限りの取り組みを行うように計画して実践につなげてきた結果と考える。	各教科で時数の確保が難しい中、教科の時数の中でどのように地域に目を向けられるか教材研究が必要である。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

進んで明るく挨拶のできる児童が育っている。教員は人材不足となっているので、働き方を工夫して乗り切ってほしい。来年度は、地域の力をどのように学校活動に生かしていくかアイデアを出し、練り上げていきたい。登下校では地域の力と教員の指導によって無事故となっている。放課後の事故防止として自転車のヘルメット着用率を上げていきたい。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

限られた時間と職員の中で、できる限り『インクルーシブな学校の構築』を目指してきたことで、支援を必要とする児童を発見し、組織的に対応する環境を作ることができた。次年度は職員間のコンサルテーションを確保することでさらに質の高い学校経営につなげていく。